

# 大田区自立支援協議会 第5回相談支援部会要旨

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第5回相談支援部会			
(2) 開催日時	令和5年12月13日(水) 9:30~12:00			
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター5階 多目的室			
(4) 出席した委員、事務局等	委 員 <span style="float: right;">&lt;敬称略&gt;</span>			
	神作 彩子	古怒田 幸子	椿山 通子	山本 利寛
	大類 信裕	草野 牧子	呉 ルミ	筒井 寛孝
	森田 友哉			
	オブザーバー：徳留 敦子、村田 亮、高柳 茂泰、森田 好美、渡部 尚、西岡 寿恵			
	福祉人材交流・育成センター：滝本 裕弥、川中 純玲、吉原 有美、槇 真紀、吉田 昭子			
	事務局：須藤 成政、酒井 史穂			
欠席者：稗田 潤、宮澤 創、赤羽 知映、貝森 はるみ、小嶋 愛斗、清野 弘子、渡邊 伸幸、後藤 憲治、七尾 尚之、小川 幹夫、永谷 百恵、阿部 朝奈				
(5) 内容・要旨	<p><b>1 連絡確認事項</b></p> <p>(1) 司会・書記の確認 司会は神作部会長、須藤係長。書記は事務局で行うことを確認した。</p> <p>(2) 運営会議の報告 第2回自立支援協議会本会を令和6年3月6日(水)に開催することが決まった。</p> <p>(3) 編集委員について 交流会に参加した委員から、今回は貝森委員が担当する。</p> <p><b>2 本日の検討課題</b></p> <p>(1) 相談つながるカフェ</p> <p>ア 自立支援協議会 相談支援部会について</p> <p>大田区自立支援協議会では、部会長が認めた者はオブザーバーとして参加できる。自立支援協議会設置の目的は、「障害者及び障害児の地域における自立した生活を支援するため、相談支援事業をはじめ、地域の障害福祉の課題について具体的な検討を行うこと」である。現在、自事業所のみで相談を受け対応していくことは難しい。国の示す、重層的な相談支援体制として、サービス等利用計画を作成している第1層、サービスの利用を検討している人や障害福祉に繋がっていない人などからの相談を含め多岐に渡る相談を受けているのが第2層。第2層は報酬が発生せず、行政の窓口や委託を受けた事業所が担っている。地域における相談支援体制の整備や社会資源の開発などを担うのが第3層であり、自立支援協議会は第3層にあたる。大田区の第1層は46事業所が指定され、第2層はサポートセンターや大田区の4庁舎の地域福祉課、地域健康課、地域活動支援センターが窓口となっている。</p> <p>令和4年度のワーキンググループ(以下WG)では、第2層の現状について検討した。また、第2層と定義されていないが、一般的な相談を担っている相談窓口がある</p>			

ことを図にまとめた。専門分野に限らず、生活上の相談を担っている人が「相談」について考える必要があると考え、本日の「相談つながるカフェ」を設定した。

相談支援部会では、令和3・4年度には「医療との連携」という課題に取り組み、令和5・6年度では医療に限らず「連携」の課題に相談支援の視点から取り組んでいる。

#### イ 各機関の紹介

##### (ア) 社会福祉協議会（地域福祉コーディネーター）

相談内容としては生活困窮の方からの相談が多く、職業支援から繋がることも多い。社会福祉協議会は誰もが住みやすい地域を目指している。また、重層的支援体制整備事業の中で参加支援と地域づくり支援を担っている。参加支援では、社会から孤立している方を地域の活動や就労支援など改めて社会に繋ぎなおしをしている。地域づくり支援では、制度のみでの解決が難しい課題を、地域の方と一緒に解決し社会資源を開拓に努めている。

##### (イ) 大田区生活再建・就労サポートセンターJOBOTA

JOBOTAは区民の方を対象とした総合相談窓口。生活保護受給中の方は担当ケースワーカーがいるため対象としていないが、それ以外の高齢分野や障がい分野など区別せず多岐に渡る相談を受け付けている。多重債務のある方、生活費にお困りの方からの相談が多い。背景にギャンブル依存やアルコール依存があれば病院に同行するなど、医療面で病院と連携した支援も行っている。金銭の搾取等も含め虐待が疑われる場合は、行政と連携をとっている。住居がない方や高齢のため部屋の更新を断られてしまった方の住居探しの相談も受けている。また、就労支援として模擬面接や履歴書作成の支援も行っている。就労に関連して住居確保給付金の申請窓口でもある。就労準備支援事業としてパソコン教室やペン習字なども行っている。大田区ひきこもり支援室SAPOTAは分室となる。

##### (ウ) 大田区ひきこもり支援室 SAPOTA

ひきこもりの方に関する相談窓口。部屋や玄関から全く出られず、相談窓口まで来ることができない方へ訪問するアウトリーチも行っている。当事者だけではなく、ご家族との面談も継続的に行っている。8050問題というが、親御さんも介護保険サービスを利用している方がおり、窓口まで来ることが難しいという方も多い。地域庁舎での出張相談も行っている。

##### (エ) 大田区若者サポートセンター フラットおおた

15歳から39歳までの若者を対象に、利用したい方は誰でも利用できる施設。利用者からの相談は進学や就職、精神的な不調、家族の問題など多岐に渡る。当センターのみでは解決できない問題を他の専門機関とどう繋がり紹介していくかが今後の課題と考えている。精神的な問題を抱えている方が多い。

##### (オ) 大田区地域包括支援センター 馬込

高齢者の介護や福祉に関する総合相談窓口。大田区には地域包括支援センターが23か所設置されている。介護保険サービスを利用したいご家族やご本人の

相談からケアマネジャーに繋いだり、元気な高齢の方へフレイル予防のため地域に出向いて地域講座などを行ったりしている。個別相談では、民生委員や町会の方々と連携している。高齢のご両親が障がいのあるお子さんとの生活が難しくなってきたケースや、高齢の方が同居のお孫さんから暴力を受けているケースなどの相談が入っている。

(カ) 大田区介護支援専門員連絡会

区内で仕事をしているケアマネジャーの職能団体。会員は約 340 名。生活保護や障害サービスとの併用の方、8050 問題・9060 問題の世帯もある。家の中に入るとひきこもりの方、障がいがある方、ヤングケアラーなど常に新しい課題に直面している。また、大田区からは個別避難計画書の作成の委託も受けており、本当に地域のことを知っておく必要がある。障害サービスと併用するケアプランを作成しているケアマネジャーは少ないため、障がい分野のことも理解していきたい。

ケアマネジャーは相談に来てもらうというより、家の中に入っていける立場。家に入ると、8050 問題やひきこもりの家族の問題、虐待、依存症など表に出ていなかった問題を知ることがあるが、どこにつなげればいいのか分からないことが多い。相談先を知るという意味でも勉強させていただきたい。

(キ) 東邦大学医療センター 大森病院（医療ソーシャルワーカー）

当院は大学病院であり特定機能病院でもある。がん診療や様々な機能を持っている病院。ライフステージで言うと出生から亡くなるまでが対象。出産にまつわることで不妊治療や先天性疾患やいわゆる重症新生児仮死で出生されたお子さんもいる。がん診療では小児から高齢者まで幅広く対応しているのが特徴。その中で通院されている方あるいは入院中の患者さんに相談業務というかたちで対応している。さらには救急救命センターという三次救急も併設しているため、急なけがや疾患で搬送されてくる方もいる。搬送されてくる方の中には自殺企図など何らかの疾患が背景にある場合や、様々な困難を抱えて自殺企図に至った場合などがある。また、疾患あるいはけがを乗り越えても障がいを抱えてしまうこともあるため、地域生活に戻る方の中には、地域の支援機関の支援を必要している方もいる。

(ク) 牧田総合病院（医療ソーシャルワーカー）

当院は二次救急の医療機関。ソーシャルワーカーは 3 名在籍しており、入院外来は問わず全ての患者さんやご家族の相談を受けている。相談の内容は多岐に渡るが退院支援が多い。医療費が払えないなどの経済的な相談や単身の方で介護が必要になりご自宅に帰るにあたり様々な準備の相談、自宅に帰れない方には施設への入所の支援などを行っている。最近では、ご家族にも精神疾患のある方や障がいのある方がおり、ご家族も含めた支援が必要と感じている。

(ケ) 牧田リハビリテーション病院（医療ソーシャルワーカー）

当院は治療を終えてリハビリが必要な方が入院をされる回復期の病院。入院のみで外来機能はないため、地域の医療機関からリハビリのための入院相談や

入院している患者さんの退院相談が多い。経済的な相談も多いが、けがや病気になる前からあった課題が表面化するケースが多い。コロナ禍で困窮されている方が多くなってきている。

(コ) 大田区 生活福祉課

本日出席している大体の機関とは情報提供や相談をさせていただいている。主には生活の相談を受けているが、蒲田地区では居住がない方や外国籍の方からの相談も多い。アウトリーチで相談を受ける体制が現在のところないため、ご本人に窓口に来ていただくか、すでに関わっている障がい福祉関係やJOBOTAなどの機関から情報提供があると繋がりやすい。生活保護の女性で養育困難な方は母子生活支援施設の入所調整等も行っている。相談でよく話を聞いていくと、主訴とは別に複合的な課題を抱えている方が多い。生活福祉課や相談窓口だけでは対応しきれない課題も出てくると思うため、様々な機関と連携していきたい。

(サ) 大田区 子育て支援課 子どもサポート担当

区立小学校内の学童保育や児童館等の指導や改善及び調整などを行っている。また、特別な配慮を要する児童の育成や指導に関する連絡調整を行っている。児童館や学童保育施設からは、指導員の立場から発達が気になる児童の相談や障がい児の対応についての相談を受けている。また、心理相談員が巡回している。児童館等の施設では保健師とも連携して情報共有や関係機関の紹介などを行っている。保護者から医療的ケア児のお子さんのケースで学校から児童館までの移動をどうしたらいいかなどの相談を直接受けることもある。学童に入れなかったお子さんに放課後等デイサービスを紹介することもあるが金銭的に厳しいご家庭の場合は利用が難しい場合などがある。

(シ) 大田区 子ども家庭支援センター

センターとしては様々な事業を行っている。具体的には18歳未満のお子さん、特定妊婦の方が対象となる。特定妊婦には若年者や、経済的な問題がある方、居所がはっきりしない方などがいる。子どもと家庭に関する総合相談窓口としての役割、家庭内虐待の通告窓口という2つの役割がある。「乳児がミルクを飲まない」「離乳食を食べてくれない」などの相談は保健師が中心に対応している。「痲癩がひどくどう対応したらいいか分からない」「子どもが不登校になっている」などの相談には心理士が対応している。「子どもから離れたい」などの相談には地区の担当者に対応しており、家庭訪問に行き親御さんから話を聞き、どのようなサービスを利用できるか考えショートステイなどを案内している。虐待通告の窓口には、様々なところから通報がある。話ができるお子さんの場合は話を聞きに行き、その後親御さんに注意をするという流れをとっている。障がい等があるお子さんが多く、その場合は親御さんに注意するのみでは解決にならないため、相談支援事業者の方や障害福祉サービス事業所の皆様、保育園や児童館の皆様と一緒にどうすれば虐待を防げるのかを考えている。

(ス) 大田区 保育サービス課

事業内容としては区立保育園に関すること全般を取り扱っている。医療的ケアが必要なお子さんの保護者から入園に関する相談を受けたり、入園後に職員から相談を受けたりしている。入園した頃は分からなかった特性に、年齢が上がっていくと親御さんや保育士が気付くことがある。そうした相談に入園前から入園後、保護者や保育士とで話を進めている。また、保護者の了承を得た上で巡回相談として心理士を派遣し、発達検査を受けていただき特別な支援が必要と分かれば職員の加配などもしている。特別支援教育士や心理士にクラスの活動を見てもらい、集団としての助言をいただくなどもしている。他機関との連携は、医療的ケアが必要な方の主治医に、ケアの内容や集団保育が可能かを相談したり、医師会に毎年特別な支援を必要とする子どもの保育の実施等に関する審査会に参加していただきご相談したりしている。また、保育園に通いながらろう学校や療育機関に通っているお子さんもいるため、そういった機関とも連携している。

(七) 大田区 教育センター

就学相談として、特別支援学校、特別支援学級、サポートルームという特別支援教育を利用する皆様の相談を受けている。また、就学支援委員会として、どこで勉強をするのがその子どもの成長に良いのか検討する仕事をしている。教育相談として、教育に関する一般的な相談を受けているが、最も多いのは不登校の問題。区内では義務教育で6000人から7000人の不登校の子どもがいる。教育委員会では「みらい学園」という不登校の子どもを対象とした特例の学校を開室した。また、教育センターとしては「つばさ教室」という、自主的な学習をする場で居場所としての役割も持った教室を4教室作った。令和6年にもう1か所増やす方向で検討している。また、自閉症情緒固定学級を令和6年4月から大森東小学校に開設する。令和7年には小学校が1か所、中学校1か所開設を予定している。発達障がいはいは、お子さんの成長の中で分かってくることが多く、保護者の方が受容しきれていないなかでのやり取りが難しいと感じている。

(ソ) 国際都市おおた協会

区が平成29年に設立した団体。昨年4月より、おおた国際交流センター(Minto Ota)という新しい拠点を構えた。そこでは多文化共生や外国人との国際交流等を行っている。具体的には日本語の講座や外国人の保護者の方に向けた入学前のガイダンスや、学校のプリントを読むための日本語講座、外国人の介護人材育成に向けた介護に関する日本語講座も大田区より委託を受けて実施している。相談に関しては多言語相談窓口で外国籍の方の生活に関する困りごとを受け付けている。大田区では約27,000人強の外国籍の方が住んでおり、お子さんが生まれる前から亡くなるまで広いライフステージの方がいる。長期の在留を目的として来る方も増えてきている。行政からのお知らせが読めない、書類を書くのを手伝ってほしいといった内容から、子どもの発達に関わる相談

や生活の困難を抱えている方からの相談、一人親の世帯や様々なライフステージに合わせた相談がある。支援者からの相談も受け付けている。

(レガートおおた)

国際都市おおた協会から事業を受託して多言語相談窓口、子ども日本語教室、通訳や翻訳の事業を受託して運営をしている。外国籍の方の相談窓口を運営しているが、生活困窮や子どもの教育や発達に関することや労働の問題や在留資格に関する事などの相談を受けている。また、外国籍の女性の方のDV相談なども受けている。ひきこもりになってしまった外国ルーツの方についてはSAPOTAや、重度の身体障がいがある方はサポートセンターなどへ相談。外国籍の方も様々な背景を抱えている方がいる。窓口業務のみが受託の内容だが、レガートおおた独自の事業として通訳同行など伴走型支援を行っている。昨年度、外国籍の方のための伴走型支援のガイドブックを作成した。

(タ) 東京都 北療育センター 城南分園

就学前の子どもの発達支援、18歳以上の方の生活介護事業、診療所の3つの機能がある。城南分園は肢体不自由の方の施設だったため、歩行可能な場合他の施設へ案内していたが、最近はなくなってきている。ご家族から発達障がいに関する相談を心理スタッフとともに聞いているが、家族も子どもとどのように生活を組み立てていったらいいか悩んでいると感じている。

ウ 意見交換

- 相談を聞く際に意識していることは、相談者を枠組みに当てはめて考えないというところが分野関係なく共通していた。
- 包括的なネットワークについて、まだまだ行政を中心に縦割りではないか、スピード感を持ってやるべきではないかという意見が出ていた。例えば110番や119番のように、連絡すればそこが責任をもって連携を持てるというような体制が必要ではないか。
- 本人だけではなくその背景に家族への支援が必要な場合や、家族が抱える課題があるのではないかという話が多かった。
- 本人や家族など対象の方が、複数の関係機関に相談しているが各機関で言うことが違う場合などの悩みはよくある。
- 第三者からの相談はあるが本人には困り感がない場合や、本人にどう納得してもらいながら支援していくかという話が出た。課題の原因を考えると寂しさなどがある場合もあり、根本的なところも解決できるような地域づくり、誰でも話ができるような場所づくりもできれば良いという話になった。
- 多言語相談窓口の方を中心に話が盛り上がった。言語だけでなく文化の違いも含めて理解してもらうまでに難しさがあるという話や、それを踏まえて医療や福祉サービスが万能ではないことをどう理解してもらうかが難しいという話が出た。外国人だからではなくその方の年齢や価値観や置かれている状況によっても変わってくる。意識している事として、時間をかけて説明をするなど様々な方法を試してい

る。説明者を変えて説明したら納得されることがあるが、支援者間が方針を一致させなければいけない。意識はしているが難しさもあるという話が出た。

### 3 福祉人材交流・育成センターより

福祉人材交流・育成センターでは、介護保険や障がい福祉の分野に限定せず広く様々な方にご参加いただくことを目的にして研修やセミナー等を実施している。福祉従事者フォローアップセミナーは研修的な要素ではなく従事者の方々が気軽に交流をする、横の連携を強めることを目的としており、今回のカフェのような空間を作っていければと企画している。福祉人材交流・育成センターがこのような企画をする際には、企画段階からご意見をいただける方がいれば福祉人材交流・育成センターの担当まで連絡をお願いしたい。

### 4 神作部会長より

基幹相談支援センターとして、国からはワンストップの相談ということを言われており、心掛けたいと思うが、現実的にはなかなか難しい。そんな中、相談に来た方に対して丁寧に受け止めることはサポートセンターでも心掛けている。連携相手の役割が分かっているために不満な気持ちが出てしまうこともある。本日は今後連携するかもしれない相手が何をやる所なのかを分かってもらうための場になればと思っている。お互いの役割が分かると、連携が上手くいっているということになるのではないかと。今回の機会を最初で最後にするのではなく、互いの役割を知って上手く連携がとれる関係になっていければ嬉しい。

#### 【次回日程】

作業部会：令和6年1月24日（水）13時30分～15時30分

専門部会：令和6年2月15日（木）9時30分～12時00分

障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室